



主体的に関わる ~異年齢で関わる経験を通して~

園長 渡邊 舞

今日もたくさんのワクワクを感じながら、異年齢で関わり合う姿が見られました。年中さんと年長さんの遊びを年少さんたちが一緒にしたり、年少さんたちの遊びに年長さんと年中さんが入って遊んだりすることもあります。先日は、縄跳びが跳べるようになり、繰り返し跳ぶ年中さんと年長さんを年少さんのお友達がじっと見つめる場面がありました。

年中さんは「〇〇ちゃん縄跳びやってみたいの?」と年少さんに声を掛け、そばにいた年長さんは年少さんが跳びやすいように縄を短く調整してあげていました。その後、「足はそろえて、こうやって跳ぶんだよ」など実際に跳んで見せながら跳び方を教え、年少さんは一生懸命に挑戦。ぎこちない動きながらもゆっくり跳ぼうとする年少さんを年中さんは「すごいすごい!上手、そうそう」と精一杯の言葉で褒めていました。年少さんもその言葉に満面の笑みを浮かべ、さらにもっと、もっと、というふうにがんばっていました。その後年少さんが疲れている様子に気付くと、年中さんが「ここで少し休んで」と座る場所を用意する場面も。一人一人の成長を感じ、心が温かくなった、ある日の午後の一場面です。



年中さんから縄跳びの跳び方を教えてもらう年少さん

西幼稚園の今年度の重点目標は『もの・ひと・ことに主体的にかかわり「もっと〇〇したい」と遊びを楽しむ子ども』です。この目標を目指す過程で、異年齢での関わりは大切にしてきたことのひとつです。子ども同士がお互いに関心を持ち、より自然に関わる姿が生まれる場を、日々、教職員全員で打ち合わせをし、支えてきました。始めは淡い関わりだった年度当初。より自然に日々の遊び、行事などを通して、年齢や発達が違う友達と主体的に関わるようになり、お互いを認め合いながら育ち合う関係性が育まれてきました。冒頭の縄跳びの場面のように、年上のお友達にあこがれの気持ちを抱いたり、年下のお友達に寄り添おうとする姿は、突然そのような場面になるように設定して生まれるものではありません。お互いに関心を持ち、共に新しい世界に出会い、心に響く経験が積み重ねられた先の姿と考えます。子供たちの姿から様々な違いを認め合い、多様性を受け入れながら人と関わる力の基礎を着実に身に付けていることを実感します。



時々、幼稚園のみんなでお帰りの時間を迎えます

年少さんたちや年中さんは「ヒミツの会議」をしながら、もうすぐ修了する年長さんに、明日ありがとうの気持ちを伝える会をします。年少さんたちと年中さんが年長さんへの思いを意識化し、年長さんをうれしい気持ちに、そして喜ばせたいという思いから主体的にできることを考え、準備できるように支えてきました。「〇〇ちゃん(年長さん)と、鬼ごっこやかけっこを一緒にやって楽しかった」「かくれんぼもして楽しかったよね」「プレゼントをあげたい」「運動会のときのダンスを年長さんと踊りたいな」など、ヒミツの会議では、年長さんへの思いがたくさんあふれていました。年長さんからもらったたくさんの優しさや楽しさが、年長さんへの「ありがとう」の思いとして年長さんに届くよう、明日は子供たちの主体的に関わり合う姿を支えたいと思います。